

患者安全推進 (Patient Safety Promotion)

日本医療安全学会 理事長

酒井 亮二

日本では患者安全に医療界が取り組みはじめて、約 20 年近くの歳月が経りました。患者安全に関して一輪の花もなかった日本の島には、官民挙げて様々なインフラと活動の花が咲き乱れ始めました。

しかしながら、近年の日本では大学病院をはじめ大小の規模を問わず様々な病院において深刻な重大事故が多発し続けています。これは、これまでの医療安全活動には大きな問題点があることを意味しています。

とすれば、従来の延長では問題は解決できず、どのような問題点があるかを国民レベルで謙虚に反省する時期と言い得ます。

現場で長年担当されている先生方からは、安全意識が医療界の国民運動になっていないという声が届いています。つまり、病院の一部の関係者だけが熱心に行っているだけで、医療従事者全員の患者安全へのモチベーションが一向に向上していない、というご指摘です。従って、医療従事者の医療事故が絶えないとのことです。

色々なルールと指示書を出し、管理、監視すること。これらはマネジメント学での究極目標ではありません。これらはマネジメントにおける制御の手段の一部です。

マネジメントの究極目標は、全職員が目標に向かって生き生きと立ち向かう組織風土を構築することです。医療安全分野でいえば、患者安全に関して個々人が自ら考えて積極的に問題を改善・向上する組織風土を構築することです。

言葉としては安全管理ではなく安全推進の方が患者安全の国民運動、全職員のモチベーション向上に適しているのではないのでしょうか？ かつての健康管理運動から健康増進運動への転換のように。